

令和7年3月5日

各 位

会社名 株式会社アイビー化粧品  
代表者名 代表取締役社長 白銀 浩二  
(コード番号 4918 東証スタンダード)  
問合せ先 取締役 経営管理部 部長  
役職・氏名 中山 聖仁  
電 話 03-6880-1201

## 借入金の期日前返済および今後の見通しに関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会(書面決議)で、横浜銀行と締結しておりました長期借入金(コベナンツ契約付、令和7年8月に完済予定)の繰上返済を行うことを決議致しましたので、お知らせ致します。

### 1. 期日前返済の理由

当社は、ここ数年間取組んでおりました構造改革により、令和7年3月期第3四半期会計期間末において、自己資本比率は72.3%まで回復し、有利子負債を242,469千円まで減らすことが出来ました。そのような財務内容の改善を踏まえ、横浜銀行と締結しておりました長期借入金(コベナンツ契約付、令和7年8月に完済予定)も、令和7年3月末に繰上返済を行うことと致しました。

### 2. 当該長期借入金の内容

借入先	横浜銀行
借入金額	600,000千円
借入実行日	平成30年8月31日
借入金利	TIBOR+0.9%
借入期間	7年
返済方法	元金均等払い
担保等の有無	無担保(財務制限条項付) 下記①又は②の財務制限条項に抵触した場合には、期限の利益を喪失します。 ① 貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額又は平成30年3月31日の金額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。 ② 損益計算上の経常損益につき2期(通期)連続して損失を計上しないこと。
当第3四半期会計期間末借入残高	62,500千円

### 3. 今後の見通し

当該繰上返済による当期業績への影響は軽微です。

資金繰りについては、銀行取引は補助的な位置付けとしてまいります。そのため、営業活動において得られた資金は、配当支払いとのバランスを考えながら、内部留保を行ってまいります。また、新株予約権の行使で得られた資金については、発行時に開示しております資金用途のとおり、研究開発費、創業50周年記念製品の開発および製造費用などに投じていく予定ですが、状況を勘案しながら、新株予約権の取得・償却についても検討してまいります。また、有利子負債の削減が

進んでいることから、次期以降の返済負担は少なく、キャッシュフローの改善がさらに進む見込みです。

当社は、長期の業績低迷により、経費節減に努めてまいりました。当第3四半期累計期間で営業黒字となりましたが、第3四半期累計期間で営業黒字となるのは、平成 29 年3月期第3四半期累計期間以来8期ぶりです。また、当社は第2四半期会計期間と第4四半期会計期間の売上高が多いという特長があること、令和7年3月に大型スキンケア製品を発売したこと、経費削減の進捗が進んでいることから、令和7年3月期(通期)の営業利益は 450,000 千円を予想しております。令和7年3月期の営業利益予想で、MSR(安全余裕率)が 20%を超える水準まで経費削減を進めた結果、営業利益を確保しやすい損益構造となっております。

株主還元につきましては、当社がKPI(重要業績評価指標)の一つとして定めております自己資本比率も、令和7年3月期第3四半期会計期間末で 72.3%と改善が進み、今後も収益力の向上により安定的に自己資本比率を 60%以上維持できる見通しが立ってきたため、復配に向けた準備を行ってまいります。累積している優先株式に対する未払配当(令和7年3月期末時点で、7期分 187,500 千円)を今期以降なるべく早期に支払いを行い、普通株式の復配が出来るように、配当可能利益を確保できるような経営を行ってまいります。令和7年3月期は特別損失を計上していますので、当期純利益予想は 80,000 千円としていますので累積している優先株式に対する未払配当を全額支払いは出来ませんが、次期において、累積している優先配当の支払を終え、普通株式に対する配当を復配する予定です。また、復配を優先に考えておりますが、PBR(株価純資産倍率)が1倍を切っている株価水準であれば、自社株買いも検討してまいります。

また、収益力が回復してきたこと、財務内容が安定してきたこと、コロナ禍も落ち着き研修動員数も増加してきたこと、愛用者づくりの起爆剤となる新製品「ベーシックプラス」シリーズを令和7年3月に発売しましたので、目の前の人を美しくする仲間づくり、愛用者づくりに全力をあげて取り組んでまいります。

以上